

昭和天皇のゆかりの地を訪ねて

今年七月に開催された北海道洞爺湖サミットの余韻が残る壮警町と洞爺湖町にまたがる有珠山の峰々、特に昭和天山について今回は紹介しましょう。この昭和天山を昭和天皇は昭和二十九(一九五四)年八月、洞爺湖湖畔から望まれています。当時、米国の施政権下にあった沖繩を除く最後の戦後の地方巡幸の途次でしたが、七日に青函連絡船の洞爺丸で津軽海峡を渡海されてから、稚内方面を除いてほぼ全道を回り、札幌では第九回国民体育大会にご臨席、二十三日に千歳から初めて飛行機にご搭乗になって帰京されました。ところが一月後の九月二十六日に洞爺丸が台風で遭難、一千人以上の人が亡くなり、陛下は悲しみの御製を二首詠まれています。来月は黄葉紅葉の季節、足跡をたどられ先人への感動を新たにされたいかがでしょう。(大石 昭爾)

昭和天皇・香淳皇后は 時三十二分にご出発、湖三松氏にゆりますと、間違ったのではないでし大沼定公園内の山水館 岸の景色を眺められ、滝 両陛下のご滞在は十五分 ようか。

に八日はご宿泊、翌九日の上から徐行されて村のぐらいつのことでした 思い返せば、昭和十八はお召列車で森、八雲、 中心部に入られ、村民の【昭和五十一年十一月十(一九四三)年十二月二十長万部の国鉄各駅で奉迎 奉迎を受けられました。一日付【北海タイムス】。十八日の夕刻に頻発地震を受けられ、十二時三十分 その後、御列車は国鉄 胆振線の壮警駅前(廃線)は、三松氏にとつては日本学士院での晴れ 治四十三(一九一〇)年 廃駅を一時五十分に通 の発表や第一回北海道文 に遭遇した「有珠山の火 達市)に向かわれました 励賞受賞の際でも味わら【出典「壮警町史】」。 ことができなかった達成感を感じた密度の濃い時

北海道・昭和天山

迎を受けられたあと、御列車で青い洞爺湖を俯瞰されながら壮警町(現・壮警町)の道立昭和天山資料展示館にご到着。

最初は湯浅村長から昭和天山のご説明を受けられていましたが、陛下は畑地に火山噴火で忽然と現れた標高四〇六(現三九八)の赤い山に興味が持たれてご質問が多岐にわたったため、山を長年観察してきた三松正夫氏も加わってご説明したそうです。

ご満足された陛下は御料車にもご乗られ、午後一

道立昭和天山資料展示館で、ご覧になる両陛下。左から3人目が三松正夫氏



噴火による生成過程を詳しく質問

の体験から新しい活動としました。 推測、観察活動を開始したのがきっかけでした。

三松氏は壮警郵便局の局長で五十五歳、正規になく奇異な目で見られる噴火活動を克明に記録 和天山を形成して昭和二

火山学を学んだわけではしたが、臆せず「記録は必す後世に役立つ」と信じて行動されました。



白煙を上げる昭和天山。山頂が赤いのは土壤がマグマの熱と酸化で煉瓦状になったため。三松正夫記念館前の景観で、壮警郵便局は新山の向こう側



右に昭和天山、左に洞爺湖。8月20日は雨でしたが晴天の美しさはさぞや…有珠山ロープウェイの山頂駅わきの「洞爺湖展望台」から



三松正夫記念館の正面。屋外展示物は昭和天山、山頂駅から遊歩道を七分歩けば火口原展望台、昭和天山側を背に眺めると、右手に手前から大有珠、有珠新山、小有珠と並び、噴火湾も望めます。登山装備も望めます。現在にいたっています。

十(一九四五)年九月二十日に終息しましたが、二十一年四月三十日まで、外に決心を向ける人は少

同資料展示館は昭和四十二(一九六七)年十二月に壮警町に移管され昭和五十九(一九八四)年三月二十九日に閉館されました。交通事情の変化などが理由です。

一方、昭和四十四年六月一日に三松正夫氏の縁者である三郎氏が昭和天山の麓・新山地区にある(株)昭和天山植物園の一室に「昭和天山資料館」を開設しましたが昭和六十(一九八六)年十一月



三松三朗館長

しい限りでしょう。記念館を出て徒歩約五分の有珠山ロープウェイに向かう途中に駐車場があり、こちらから昭和天山を改めて見上げますと、雨中のせいか、山肌から上がる白煙は晴天続きのときより多そうでした。



① 壮警郵便局付近から畑越しに見た有珠山 ② 噴火で煙のなかに形成された昭和天山 (三松正夫記念館提供)



三十年に閉館。これより少し離れた場所に「三松正夫記念館(昭和天山資料館)」を昭和六十三年四月二十三日に開設、現在にいたっています。

三松三朗館長は「天覽に供された正夫のスケッチやブリキ製の昭和天山模型も展示しています」

山沼展望公園、1977年火山遺構公園、洞爺湖町内の環境省洞爺湖ビジターセンター・洞爺湖町立火山科学館、金毘羅火山散策路を見学するとよいでしょう。

壮警町は昭和天山国際雪合戦、横綱北の湖記念館でも有名ですが、地球温暖化や原油高騰で人類の歴史は曲がり角に差しかかっていますので、ひと時、火山すなわち地球に向かい合ってみようではないでしょうか。

- 三松正夫記念館×モ
- ☆入館料 大人三百円、小学生二百五十円(団体割引あり)
- ☆開館時間 8時~17時
- ☆休館日 4~12月・2月は無休、1月・3月は不定休
- ☆☎ 0142・755・2365(取替)
- ☆夜75・2852
- ☆アクセス 10月19日まで道南バス「洞爺駅前」下車「洞爺湖温泉」乗り換え「昭和新山の便」があります。詳しくは洞爺営業所(☎0142・755・2351)に